



株式会社 松屋フーズ

〒180-0006 東京都武蔵野市中町一丁目14番5号
TEL：0422(38)1121(代)
http://www.matsuyafoods.co.jp/

郵便はがき

1 8 0 8 7 9 0

料金受取人払郵便

武蔵野支店承認

19

差出有効期間
平成20年12月
31日まで有効

切手不要

(受取人)

東京都武蔵野市中町1-14-5

株式会社松屋フーズ 総務人事部 行



個人情報保護のため氏名はご記入いただかなくて結構です。

住 所 (都道府県名)

(都・道・府・県)

性 別 男 ・ 女

年 齢 20代未満、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上

職 業 会社員、会社経営者・自営業、官公庁・団体職員、
専門職、主婦、無職、その他

株式投資歴 3年未満、3年以上10年未満、10年以上20年未満、
20年以上

該当する項目に○をお付けください。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会：毎年3月31日
期 末 配 当：毎年3月31日
中 間 配 当：毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法 当社の公告は電子公告により行います。
ホームページアドレス http://www.matsuyafoods.co.jp/
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、東京都において発行する日本
経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
(電話照会先) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所 住友信託銀行株式会社
本店及び全国各支店
単 元 株 式 数 100株

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9887

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト
内にある検索窓に、いいかぶと
4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差し上げていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細
http://www.a2media.co.jp) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用さ
せていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com



株式会社 松屋フーズ

松屋

第33期 期末報告書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

Business Report 2008

[写真上より]

●カルビ焼肉定食 ●「松屋」三鷹店 ●「すし松」蔵店
●オリジナルカレーライス ●牛めし

「第33期期末報告書」送付および 「第33期期末配当金のお支払」について

拝啓 株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当社第33期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の事業の概況を、ここに第33期期末報告書としてお届けいたしますので、よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

次に、「第33期期末配当金のお支払」に関する書類も同封させていただきました。下記の通りお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

敬具

「第33期期末配当金のお支払」について

第33期期末配当金（1株につき12円）は、同封の「第33期期末配当金領収証」により、お近くのゆうちょ銀行 全国本支店および出張所並びに郵便局（銀行代理業者）でお受け取りください。

なお、期末配当金の送金方法をご指定の方には、「第33期期末配当金計算書」および「配当金のお振込先について」を同封いたしましたので、ご確認をお願いいたします。

HIGHLIGHTS | [単体決算ベース]

売上高

60,727 百万円

既存店売上高の前期比が100.3%となったことや、前期以降の新規出店による売上増加分等が寄与し、前期比1.6%の増収となった。

経常利益

2,589 百万円

「美味追求」の取り組みとして、品質向上のための使用食材の見直しを行い、状況に応じて価格の見直しを実施した。また、主要食材の仕入れ価格が低減したことや、人件費の売上高に対する比率も前期とほぼ同水準となったこと等により、経常利益は前期比674百万円増加の2,589百万円となった。

当期純利益

942 百万円

上記の結果、2008年3月期の純利益は、942百万円となった。

変化のときこそ想像力で眼前の難問に取り組み、 お客様に要望される「松屋」を目指します。



代表取締役社長

瓦 葺 利 夫

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに当社2008年3月期（以下、第33期）の概況をご報告申し上げます。

Q 第33期の業績はいかがでしたか

A 外食業界におきましては、業界内にとどまらず業界の垣根を越えた競争がさらに激しくなる中、食品偽装問題や消費期限の不正表示問題、中国食品の問題等が相次ぎ、食の安全・安心に対する消費者意識の一層の高まりから、各企業の取り組み姿勢が厳しく問われる状況へと変化し、経営環境は厳しさを増しております。

当社におきましては、「既存店強化に傾注」とするという方針のもと、商品政策面では「美味追求」と題し、おいしい商品をよりおいしく、かつ、安全・安心にお召し上がりいただくために、産地変更も含め使用食材の見直しを実施いたしました。また、食材の品質向上にともない価格の見直しにも着手させていただきました。さらに、当社看板メニューである「牛めし」につきましては、いつでも、どこかの店舗で食べてもおいしい「牛めし」を提供していきたいと考え、日々研究に研究を重ねております。

新規出店以外の設備投資としては、売上増加を図るために店舗の改装をこれまでで最多の85店舗実施した他、工場生産設備などに投資を行ってまいりました。

これらの取り組みの結果、売上高につきましては、既存店の売上高が前期比100.3%と前期を上回ったことに加え、前期以降の新規出店等による売上増加分が寄与したことにより607億27百万円（前期比1.6%増）と増収となりました。

次に、当社において重視すべき指標と認識しておりますF/Lコスト〔Food（売上原価）とLabor（人件費）に係るコストの合計〕ですが、まず、売上原価につきましては、原価率は前期の33.2%から32.9%へ改善いたしました。これは、「美味追求」の取り組みとして、品質向上のため使用食材の見直しを行い、状況に応じて価格の見直しを実施したことや、これまで上昇傾向が続いていた主要な食材の仕入れ価格が、秋口から低下したこと等によるものであります。

人件費につきましては、店舗におけるアルバイト・パートの平均時給は上昇したものの、入客数にみあった適正労働時間数の管理等により前期と同水準の32.2%となりました。

以上の結果、F/Lコストが前期65.4%から65.1%と0.3ポイント改善したことや、不採算店舗の撤退や経費削減効果等により、経常利益は前期比674百万円増の2,589百万円、当期純利益は、前期比1,947百万円増加の942百万円となりました。

Q 環境保全に対する取り組みについて教えてください。

A 2006年2月から東京都内の店舗を対象に開始した自社トラック（低公害のハイブリッドカーを導入）による食品廃棄物の回収は第33期には埼玉県店舗へも拡大。回収した食品廃棄物は嵐山工場内の専用プラントで圧縮乾燥処理し、肥料原料として製造・販売する独自のリサイクル・ループを構築しています。さらに富士山工場では天然水流を活用した工場内廃棄物の自動搬送と圧縮乾燥機を連携した画期的なリサイクル・システムを設置。工場で排出される廃棄物を100%リサイク



再生利用モップ

いて、農林水産大臣賞を受賞しています。

さらに、環境保全への取り組みは生産拠点に止まりません。店舗では電気・ガス・水道の使用量削減はもちろん、廃棄物分別の徹底と排出量の定期的な計測も実施。店舗から排出される廃油も100%リサイクルしています。その他にも古くなったユ

ニフォームなどの繊維類は、グループ会社の（株）エム・エル・エスを介した専門企業で再生利用モップを始めとするリサイクル製品の原料として活用。洗剤容器、食器、厨房機器類のリユースを推進することで廃棄物の削減にも貢献しています。さらに本社・工場では使用済み書類の印字を消去して再利用できるトナー対応の印刷機や紙を水で溶解・圧縮し、繊維パック化して再生利用する機密文書処理機をいち早く導入。節電・節水を高いレベルで実現する最新システムも完備しています。松屋フーズはこれからもグループの総力を挙げて環境保全活動を展開していきたいと考えております。

Q 新業態も含めた店舗展開戦略についてお聞かせください。

A 今後の店舗戦略といたしましては、収益が確実に見込める既存店の競争力を高めるために改装店舗を増加し、新規出店については、引続き売上・収益が確実に見込めるところに厳選して出店していくことを方針としております。新業態につきましては、「とんかつ」業態、「鮎」業態ともに収益化体質への取り組みの成果が出始めてきており、また、主力業態「松屋」と隣接していることにより共存が可能であるということからも、松屋フーズグループ全体としてのシナジー効果が出せるものと期待しております。また、新業態開発・育成の手法の一つであるM&Aに関しても、松屋フーズグループとしてのシナジー効果を見極めながら、積極的に検討してまいります。



（写真上）「松八」練馬店
（写真下）「回転鮎 福松」新小岩店

Q 今後の海外戦略について教えてください。

A 松屋フーズのビジネスは海を越えてアジア・北米大陸へと限りなく広がり続けています。2004年、中国青島市に「松屋」をオープン。さらに2005年には米国ニューヨークを拠点とする外食企業をグループに加え、米国市場へも進出。中国の「青島松屋快餐有限公司」、米国の「Matsuya Foods USA, Inc.」を始めとする現地法人も設立しました。また、国際市場で活躍する「食のプロフェッショナル」を育成するために人事面の活性化や新しい研修制度も導入する予定でいます。



（写真上）「中国 MATSUYA」青島ジャスコ店
（写真下）「NY めんちゃんこ亭」55th St.店



デミたまハンバーグ定食

Q 第34期の展望についてお知らせください。

A 「2007外食産業総合調査研究センター」がまとめた2007年の外食産業の市場規模は前年を0.2ポイント上回る結果となったそうです。しかし、昨年は食の安全・安心がクローズアップされ、また、原油や小麦などの原材料価格高騰もあり、厳しい経営環境であることは十分想定されます。第34期におきましても「既存店強化に傾注する」という方針のもと、妥協のない商品づくりで顧客層の拡大に取り組んでまいります。一方、市場に目を向けると、今期は内部統制報告制度がスタートします。内部統制の「整備状況確認」は完了しており、法令・社内規定の遵守状況の確認を行いながら「運用状況評価」を進め、体制整備・強化に努めております。「内部統制の有効性」を評価し公表することは、上場企業が果たすべき説明責任であり、全社一丸となって取り組むべき重要課題の一つであると考えております。さらに、食品を取り扱う企業の不祥事も出てきておりますので、コンプライアンスを遵守しながら、業績の拡大に向けて一層邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



「食の安全性」。それはフードビジネスに携わる企業に課せられた永遠のテーマです。松屋フーズではすべてのお客様にいつでも安心してお食事をお楽しみいただけるように、徹底した品質・安全管理体制を確立しています。原材料からお客様がお召し上がりになるまでの一連の流れ（フードチェーン）の中で危害になる部分を取り除き、美味しい商品を安全・安心にお届けしたいと考えております。

1 原材料についての取り組み

生野菜などはポジティブリストに基づく検査を実施して安全性を確認するとともに、加工原料は食品添加物・衛生状態など食品衛生法に合致しているかどうかの検査を実施し、安全性を確認したもののみを使用しています。

2 工場（セントラルキッチン）における取り組み



富士山工場外観



富士山工場野菜ライン

工場は国際規格であるISO9001（品質マネジメントシステム）の認証を取得し、その管理システムの運用により商品の安全と品質を確保しております。また、製造工程および製造品は理化学検査・細菌検査による安全と衛生を確認し出荷しています。

3 流通における取り組み

工場から倉庫、倉庫から店舗への流通工程においては、厳格な衛生管理と温度管理を行うとともに、その管理が適正であるかチェックシステムを採用して安全管理を確認しています。



中央物流センター

4 店舗・その他での取り組み

店舗内ではまず、従業員の健康状態をチェックするとともに、温度管理状態および、衛生管理状態の確認により、安全で衛生的な厨房維持に努めています。

検査室では、お客様が召し上がる直前のメニューの検査を定期的実施し、最終的に安全なメニューの確認を行っています。また、1から4の仕組の運営状態を外部監査機関により確認させており、さらに、検査室を工場と本社に設け常に原料とメニューの安全の確認検査を実施しております。



検査風景

とんかつ 業態

松八、チキン亭、松乃家

現在、「松八」7店舗、「チキン亭」3店舗、「松乃家」1店舗、合計11店舗で運営しています（2008年3月31日現在）。

とんかつ業態は、「リーズナブルなお値段で気軽に食べられる」をコンセプトに、ファーストフードタイプのとんかつ店を目指しています。主カメニューは、100gのとんかつを使用した、「とんかつ定食」490円となっており、5分以内でお客様に提供できるよう、工夫をこらしています。また、とんかつには欠かせない、ソースやキャベツ用のドレッシングの開発にも取り組んでいます。店内の客席は、カウンター席はもちろん、テーブル席も用意しておりますので、お一人様でも、またグループでの利用もしやすくなっております。



「松八」とんかつメニュー



「松八」練馬店

鮎 業態

すし松、福松、すし丸、焼津丸

現在、回転寿司12店舗、立ち鮎2店舗、合計14店舗で運営しています（2008年3月31日現在）。

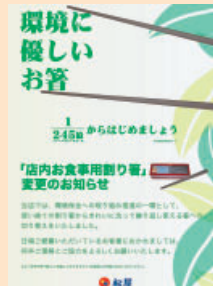
まだまだ、改善しなければならない点はあるありますが、一つずつクリアしていきながら、鮎業態フォーマットを確立していきたくております。現在牛めし業態のようなセントラルキッチン新設の検討や、店舗作業の効率化、マニュアル化を進めております。

また、一部店舗において、「マグロの解体ショー」などを実施しており、お客様から大変ご好評をいただいております。今期も数店の出店を予定しており、業態確立に向けて取り組んでまいります。



(写真左)「福松」すしメニュー
(写真右)「福松」三鷹店

環境に優しいお箸



当社では、環境保全への取り組み推進の一環として、「使い捨て割り箸」から繰り返し洗って使用できる「環境に優しいお箸」へ変更することにいたしました。この

取り組みは、森林保護とゴミの排出量削減を目的としたもので、一部店舗で実験を重ねた結果、お客様から多くのご支持をいただきましたので、取り扱い店舗を全店に拡大することにいたしました。

導入するにあたり試行錯誤したことは、箸の素材選定と店舗オペレーションの検証でした。素材選定については、繰り返しの使用による磨耗耐久性や、実際の箸としての使い勝手が繰り返し実験されました。また、店舗オペレーションにつきまちは、今までにない工程を導入しなければならず、店舗業務の負担になるため、導入の際は大変慎重に、かつ十分な実験検証を行いました。その結果、すべての問題がクリアとなったため、今回の全店導入に踏み切りました。

また、当社社員の環境への意識向上のため、本社従業員に「環境に優しいお箸」を配付するなど、環境に対する取り組みを今後も全社一丸となって行ってまいります。

2007年10月から2008年3月までに登場した

松屋のメニュー&キャンペーン

豚キムチ定食



2007年
11月15日(木)
発売

豚肉に相性ピッタリのキムチと彩り豊かな野菜を絡め、辛味が後引く美味しさの「豚キムチ定食」が、より美味しくなって再登場!

米・加・豪産牛肉使用牛めし



2007年
12月20日(木)
発売

アメリカ産・カナダ産・オーストラリア産の牛肉をブレンドした新しい「牛めし」。ふっくらとして、やわらかな食感で新発売!

豚テキ定食



2008年
1月24日(木)
発売

ディナーメニューとして「豚テキ定食」を発売! 風味豊かな甘辛ダレを絡めた、ボリューム満点のご飯がススム一品です。

牛めし50円引き



2007年
10月9日(火)
~10月16日(火)

松屋の定番「牛めし」を、日頃のご愛顧に感謝の気持ちをこめて、秋の大感謝祭と題し、期間限定で50円引きで販売!

海鮮チゲ定食



2007年
12月13日(木)
発売

前年好評だった「海鮮チゲ定食」が、より美味しくなって再登場。寒い季節にぴったりの辛味と海鮮の旨味で体の芯まで温まります。

新春お年玉セール



2008年
1月9日(水)
~1月16日(水)

期間中「牛めし」を20円引きで販売、また合計4万名様に景品が当たるスクラッチカードをプレゼントする「新春お年玉セール」を開催!

関西地区出店15周年記念感謝祭



2008年
2月14日(木)
~2月25日(月)

松屋フーズは、おかげさまで関西地区出店15周年。日頃のご愛顧に感謝をこめて、「15周年記念感謝祭」を関西地区の88店舗で開催。

当期は改装を中心に実施。店舗の魅力を高めています。

第33期は、「松屋」武蔵境南口店(東京都)、「松屋」南越谷店(埼玉県)、鮎業態の「すし松」大宮店(埼玉県)を始め、合計17店舗を出店(撤退29店舗)いたしました。

業態別内訳では、直営の牛めし定食店13店舗、鮎業態(すし松)4店舗の合計17店舗を出店した結果、期末総店舗数は、724店舗(うちFC8店舗)となりました。この業態別内訳としては、牛めし定食店698店舗、鮎業態14店舗、とんかつ業態11店舗、その他の業態1店舗となっております。

また、既存店の売上増加を図るため85店舗の改装(全面改装17店舗、一部改装68店舗)を実施いたしました。



「松屋」日暮里店(東京都)



「松屋」参宮橋店(東京都)



「松屋」目黒東口店(東京都)



●連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 2008年3月31日現在	前 期 2007年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	10,962	10,162
現金及び預金	8,445	6,715
受取手形及び売掛金	128	150
有 価 証 券	21	73
た な 卸 資 産	1,156	2,037
繰延税金資産	462	431
そ の 他	747	771
貸倒引当金	△ 0	△ 16
固 定 資 産	37,207	39,154
有形固定資産	22,166	23,683
建物及び構築物	11,617	12,446
機械装置及び運搬具	1,245	1,506
工具器具備品	1,573	1,969
土 地	7,728	7,760
建設仮勘定	1	—
無形固定資産	434	522
ソフトウェア	175	227
の れ ん	233	274
そ の 他	25	20
投資その他の資産	14,606	14,948
投資有価証券	17	17
保証金・敷金	12,586	12,924
長期前払費用	547	594
契約仮勘定	40	40
繰延税金資産	507	502
投資土地	456	456
投資建物等	222	160
そ の 他	253	284
貸倒引当金	△ 25	△ 31
資 産 合 計	48,169	49,317

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

（単位：百万円）

科 目	当 期 2008年3月31日現在	前 期 2007年3月31日現在
負 債 の 部		
流 動 負 債	9,871	8,811
買 掛 金	1,728	1,498
短 期 借 入 金	98	83
一年以内返済予定長期借入金	3,599	3,595
未 払 金	1,737	1,828
未払法人税等	979	581
賞与引当金	772	748
役員賞与引当金	29	7
そ の 他	926	467
固 定 負 債	9,530	12,247
長 期 借 入 金	8,789	11,489
役員退職慰労引当金	582	601
そ の 他	158	156
負 債 合 計	19,402	21,059
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	28,784	28,269
資 本 金	6,655	6,655
資 本 剰 余 金	6,963	6,963
利 益 剰 余 金	15,176	14,660
自 己 株 式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	△ 16	△ 12
[△] [△] 其他有価証券評価差額金	△ 0	△ 0
為替換算調整勘定	△ 16	△ 12
純 資 産 合 計	28,767	28,257
負債・純資産合計	48,169	49,317

●連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 2007年4月1日から2008年3月31日まで	前 期 2006年4月1日から2007年3月31日まで
売 上 高	61,701	60,742
売 上 原 価	20,213	20,111
売 上 総 利 益	41,488	40,630
販売費及び一般管理費	38,731	38,824
営 業 利 益	2,756	1,806
営 業 外 収 益	380	352
営 業 外 費 用	459	439
経 常 利 益	2,677	1,719
特 別 利 益	121	227
特 別 損 失	756	2,115
税金等調整前当期純利益又は純損失 ^(△)	2,043	△ 168
法人税、住民税及び事業税	1,087	733
法人税等調整額	△ 36	140
当期純利益又は純損失 ^(△)	991	△ 1,042

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●連結株主資本等変動計算書（要旨）

当連結会計年度（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	株 主 資 本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	其他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
2007年3月31日残高	6,655	6,963	14,660	△ 10	28,269	△ 0	△ 12	△ 12	28,257
連結会計年度中の変動額									
剰 余 金 の 配 当			△ 247		△ 247				△ 247
剰 余 金 の 配 当（中 間）			△ 228		△ 228				△ 228
当 期 純 利 益			991		991				991
自 己 株 式 の 取 得				△ 0	△ 0				△ 0
自 己 株 式 の 処 分			△ 0	0	0				0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△ 0	△ 4	△ 4	△ 4
連結会計年度中の変動額合計	—	—	515	△ 0	514	△ 0	△ 4	△ 4	510
2008年3月31日残高	6,655	6,963	15,176	△ 10	28,784	△ 0	△ 16	△ 16	28,767

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●単体貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

資 産 の 部		
科 目	当 期 2008年3月31日現在	前 期 2007年3月31日現在
流 動 資 産	10,462	9,589
固 定 資 産	37,505	39,485
資 産 合 計	47,967	49,074
負 債 の 部		
流 動 負 債	9,701	8,570
固 定 負 債	9,496	12,198
負 債 合 計	19,197	20,769
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	28,770	28,305
資 本 金	6,655	6,655
資 本 剰 余 金	6,963	6,963
利 益 剰 余 金	15,162	14,696
自 己 株 式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	△ 0	△ 0
その他有価証券 評 価 差 額 金	△ 0	△ 0
純 資 産 合 計	28,770	28,305
負債・純資産合計	47,967	49,074

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●株主資本等変動計算書（要旨）

当事業年度（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	株 主 資 本					評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	6,655	6,963	14,696	△ 10	28,305	△ 0	△ 0		28,305
事業年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 247		△ 247				△ 247
剰余金の配当（中間）			△ 228		△ 228				△ 228
建物圧縮積立金の取崩し			—		—				—
別途積立金の取崩し			—		—				—
当期純利益			942		942				942
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
自己株式の処分			△ 0	0	0				△ 0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）						△ 0	△ 0		△ 0
事業年度中の変動額合計	—	—	465	△ 0	465	△ 0	△ 0		464
2008年3月31日残高	6,655	6,963	15,162	△ 10	28,770	△ 0	△ 0		28,770

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。

●単体損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期 2007年4月 1 日から 2008年3月31日まで	前 期 2006年4月 1 日から 2007年3月31日まで
売 上 高	60,727	59,744
売 上 原 価	19,969	19,836
売 上 総 利 益	40,757	39,908
販売費及び一般管理費	38,240	38,337
営 業 利 益	2,516	1,570
営 業 外 収 益	537	832
営 業 外 費 用	464	488
経 常 利 益	2,589	1,914
特 別 利 益	119	220
特 別 損 失	783	2,430
税引前当期純利益又は純損失(△)	1,925	△ 294
法人税、住民税及び事業税	1,003	570
法人税等調整額	△ 19	139
当期純利益又は純損失(△)	942	△ 1,005

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てています。



	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期(予)
■ 売 上 高 (百万円)	連結 56,715	57,877	60,742	61,701	63,050
	単体 56,585	57,693	59,744	60,727	62,200
■ 経 常 利 益 (百万円)	連結 2,711	3,674	1,719	2,677	2,790
	単体 2,557	3,699	1,914	2,589	2,700
■ 当期純利益 (百万円)	連結 1,121	1,315	△ 1,042	991	1,050
	単体 1,089	1,363	△ 1,005	942	1,030
■ 総 資 産 (百万円)	連結 50,491	51,494	49,317	48,169	47,919
	単体 50,329	51,372	49,074	47,967	47,652
■ 純 資 産 (百万円)	連結 28,996	29,812	28,257	28,767	29,354
	単体 28,928	29,810	28,305	28,770	29,341
■ 1株当たり当期純利益 (円)	連結 57.04	67.49	△ 54.67	52.03	55.08
	単体 55.83	70.38	△ 52.73	49.43	54.03

株式の状況 (2008年3月31日現在)

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式総数	19,063,968株
株主数	33,900名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (株)	出資比率 (%)
瓦 葺 利 夫	4,443,400	23.31%
有 限 会 社 テ ィ ケ イ ケ イ	2,729,441	14.32%
有 限 会 社 ト ウ イ ー ル	2,000,000	10.49%
瓦 葺 一 利	753,500	3.95%
瓦 葺 香	649,372	3.41%
商 工 組 合 中 央 金 庫	518,400	2.72%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・株式会社 三井住友銀行退職給付信託口)	311,000	1.63%
松 屋 社 員 持 株 会	252,689	1.33%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	193,100	1.01%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	181,800	0.95%

会社概要 (2008年3月31日現在)

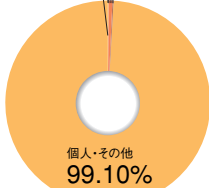
設 立	1980年1月16日
資 本 金	66億5,593万2,100円
代表取締役社長	瓦葺利夫
従 業 員 数	1,082名
売 上 高	607億円 (第33期実績)
本 社	東京都武蔵野市中町一丁目14番5号
工 場	嵐 山：埼玉県比企郡嵐山町花見台4番地3号 富士山：静岡県富士宮市大字北山字峯4242番地4号
店 舗	724店 (直営716店、FC8店)
	※海外7店舗を除く
事 業 内 容	・牛めし定食事業 ・とんかつ事業、鮎事業、ラーメン事業 ほか ・フランチャイズ加盟店への食材等の販売および経営指導

役員一覧 (2008年6月24日現在)

代表取締役社長	かわら 瓦 葺 利 夫
代表取締役副社長	みどり 緑 川 源 治
専 務 取 締 役	こ 小 松 崎 克 弘
取 締 役	さくら 桜 島 茂 雄
取 締 役	佐 藤 雅 敏
取 締 役	斎 藤 道 夫
取 締 役	うす 井 芳 人
常 勤 監 査 役	さい 斉 木 兼 芳
監 査 役	ふじ 藤 の 木 清
監 査 役	やま 山 本 宏

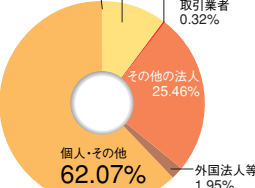
●所有者別状況 (株主数)

金融商品取引業者 0.08%
金融機関 0.09%
自己名義株式 0.00%
その他の法人 0.54%
外国法人等 0.19%



●所有者別状況 (株式数)

自己名義株式 0.03%
金融機関 10.17%
金融商品取引業者 0.32%
その他の法人 25.46%
外国法人等 1.95%



グループ会社紹介

(株) エム・ティ・ティ
店舗の総合メンテナンス、厨房機器等販売、店舗の建設施工管理、給排水工事

(株) エム・エル・エス
クリーニング事業およびリサイクル事業、廃棄物回収事業

(株) 松屋ファーム
農業および農業の代行・受託

Matsuya Foods USA, Inc.
米国における持株会社。グループの企画・マネジメント業務

Matsuya International, Inc.
米国における食材の仕入・加工・販売

Matsuya New York, Inc.
米国における飲食店舗の運営

青島松屋快餐有限公司
中華人民共和国における飲食店舗運営、地場企業の技術指導、各種業務委託

※1. 当社は、(株)エム・ビー・アイおよび(株)エム・エム・シー・エーを2008年4月1日付で吸収合併いたしました。
※2. (株)松屋ファームと青島松屋快餐有限公司は、非連結子会社で持分法非適用会社。



「株主様お食事ご優待券」のご利用方法について

Q 「株主様お食事ご優待券」で
どんなメニューが食べられますか?

A ご優待券1枚で1食、「店舗一覧」に記載店舗にて、当社指定メニュー(700円以下)を、お召し上がりいただけます。

【当社指定メニュー(下記条件にて1品選択可)】

- 定食メニュー：定食メニュー(700円以下)+ライス大盛可
- セットメニュー：セットメニュー(700円以下)
- 定食・セット以外のメニュー：定食・セット以外のメインメニュー(700円以下)+サイドメニュー(120円以下)

※ 本券の換金、差額に対しての現金返却はいたしかねます。また、現金追加による700円を超えるメインメニューを選択することはできません。

Q 「株主様お食事ご優待券」を
製品詰合わせセットと引き換えられますか?

A 詰合わせの内容は、「国産牛めしの具×4パック・豚めしの具×3パック・スパイシーチキンカレーの具×3パックの計10パック・1セット」を予定しております。
お引き換えご希望の株主様は、「株主様お食事ご優待券」10枚同封のまま、「株主様お食事ご優待券在中」封筒表面の〈当社製品詰合わせ発送先〉欄へ必要事項をご記入の上、本封筒ごと返送をお願いいたします。切手は不要です。

※「株主様お食事ご優待券」9枚以下での製品詰合わせとのお引き換えはできません。

なお、当社製品詰合わせお引き換え期限は、2008年9月30日までとさせていただきます。(9月30日消印有効)



〈株主優待制度について〉

当社の株主優待送付は、2007年3月期より、毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された所有株数100株以上の株主様に対し、ご優待券一律10枚贈呈となっております。
また、2008年6月送付分より、ご利用方法を一部変更させていただいております。
使用についての詳細につきましては、弊社ホームページ「投資家の皆様へ」においても確認いただけます。

<http://www.matsuyafoods.co.jp/ir/yutai.html>



【アンケートに関するお願い】

当社では、株主、投資家の皆様とのコミュニケーションを図るため、アンケートを実施させていただいております。お手数ではございますが、質問にお答えいただき、ご投函ください。ご協力お願いいたします。



株主の皆様へアンケートのお願い

1. 当社株式をどの位の期間保有されていますか。
a. 10年以上 b. 7年～10年 c. 5年～7年 d. 3年～5年
e. 1年～3年 f. 1年未満
2. 今後の当社株式についてどのような方針をお持ちですか。
a. 売却 b. 長期保有 c. 買い増し
また、上記方針を決定するための判断材料は何ですか。(複数回答可)
a. 株価 b. 配当 c. 株主優待 d. 将来計画 e. 業績
f. その他()
3. IR情報の提供手段としてどのようなものを希望されますか。
a. 株主通信 b. 投資家説明会 c. インターネットホームページ
d. IR広告 e. その他()
4. 今回の期末報告書で、興味を持っていた内容は何ですか。
a. 社長インタビュー b. 食材に対する松屋の取り組み c. 松屋の新業態
d. 環境に優しいお箸 e. 新メニュー&キャンペーン f. 店舗戦略
g. 財務諸表 h. その他()
5. 巻頭の社長インタビューの中で、興味を持っていた内容は何ですか。
a. 第33期の業績について b. 環境保全に対する取り組みについて
c. 新業態も含めた店舗展開戦略について d. 今後の海外戦略について
e. 第34期の展望について f. 特になし
g. その他、ご意見・ご要望をお聞かせください。

(キリトリ)

6. 当社の今後の経営課題について、重要だと思われるものは何ですか。(複数回答可)
a. 商品開発 b. 販売促進(キャンペーン) c. 価格政策
d. 店舗展開 e. 業態の多様化 f. M&A g. 食の安全・安心の取り組み
h. 環境問題対策 i. CSRの取り組み(企業の社会的責任) j. 海外展開
k. その他、ご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力有難うございました。